明治七年四月より八月ニ至ル

合要類纂

巻之六拾五

経伺之部

東京帝國大學庶務課
42
五十年史料
96

東京大学総合図書館

抑モ級長ノ設アルヤ其級生徒ノ行状ヲ督正シ勉業ヲ補助スルヲ以テ其要務トス而メ其級長ナル者ハ投票ヲ以テ衆望アル者ヲ挙クルト雖モ其学力ニ至リテハ素ヨリ同等ナルノミナラス或ハ三舎ヲ譲ルモノアリ是以実地行ハレサル処アリ方今殆ト有名無実ヲ免カレス仍テ級テ級長ヲ廃シ更ニ当直及ヒ級首ヲ設ケ其職務大凡左ノ如シ

一各級中交番ヲ以テ一員ツヽ当直ヲ設ケ其日級中ノ事務ヲ取扱フヘシ

東京開成學校

東京大學圖書
B 95401
東京大学総合図書館

一当直ハ晨起第二点鐘ニ於テ其級生徒ヲ點驗場ニ聚集シ一列ニ整頓シ監事ノ巡視ニ應スヘシ

一各室内不潔ニシテ整置ナラサルトキハ当直ノ責タルヘシ

一生徒年齒十七年以下ハ当直ヲ除スベシ

一毎月五ノ日午後第三時生徒會議ヲ設ク其日当直及ヒ外一二員出席セシメ級中ノ意見ヲ代議セシム

一各級中学業最モ先進ナル者ヲ名ケテ級首ト云フ其名ヲ荷フ者ハ特ニ面目ノ事トス

但級首ハ当直ヲ除スヘシ

一級首ハ其級生徒ノ教場出入ヲ指揮シ外国及我教員ニ對シ詞禮ヲ代唱スベシ

東京開成學校

東京開成學校

生徒ニ官費ヲ給附スルハ將來國業ノ目的アルモノヲシテ其学業ヲ成達セシメ以國家ノ採擇ニ充シノ御旨趣ナリ生徒タルモノ素ヨリ上意ヲ奉體シ勤メテ知識ヲ擴充シ学術ヲ研究シ後來國家ヲ裨益シ上意ニ奉酬スヘキ固ヨリ言ヲ俟ス然ルニ夥多生徒ノ中ニハ上意ノアル所ヲ誤認シ啻ニ其校ノ優秀ト学術ニ優等トヲ以需メスシテ官費生タルヲ得ルト瞻ニ自負スルモノ之レアルヘク其故ハ学力未タ半途ナラサルニ然モ退学ヲ請フモノ其辭多クハ父

東京開成學校

東京開成學校

毋ノ疾病或ハ貧窶家族ヲ扶助ス
ル等ニ托シ其実ハ僅ニ洋学ヲ解
シ得レハ官ニ就キ易キヲ以方向ヲ
誤ルモノアラン実ニ長大息ノ極ト
云フヘキナリ因テ今其根柢スル如
ヲ視察スルニ客歳貸費生ヲ廃
シ官費生トナスニ拠ルモノカ如何ト
ナレハ貸費生タルヤ半途退学スレ
ハ其受ル所ノ金額ヲ償還スル難キ
ヲ以テ刻苦勉励遂ニ成達スルニ
至ル官費生ハ否ラス貧富ヲ論
セス学資皆之レヲ官ニ仰クニヨリ
其退学スルモ償還ノ事ナキヲ以心安ニ

東京開成学校

安ンシ其寝食ヲ忘レ筋骨ヲ労シテ
学業ノ蘊奥ヲ探リ技術ノ精妙ヲ
究メントスルモノ却テ退学ヲ要スルニ
至リ仮令数千ノ生徒ヲ教養スルモ
其成達スルモノ屈指ニ過サルヘシ因テ
ハ半途退学ノモノハ従前学資給スル処ノ
金額償還ノ方法ヲ立左案ノ如ク御
達シ相成度生徒退校ヲ請フモノ
ナク学術進歩遂ニ国家ノ大器トナル
モノ輩出スヘシ前條一日モ難閣景況
ニ付迅速御評決相成度御達案
相添此段相伺候也

東京開成学校

明治七年四月十七日

開成学校長　辻新次

木戸文部卿殿

書面伺之趣ハ官費生規則第十四章第十五章改正ヲ以相達候事

明治七年四月廿三日

印

東京開成學校

達案

官費生ハ才藝ヲ敏達シ学術ヲ進備シ公用ニ供スヘク素ヨリ半途退学スヘカラサルノ処中ニハ小成ヲ安ンシテ成器ヲ傷ナヒ名利ニ趨リテ方向ヲ誤リ病氣或ハ事故ニ托シテ退学ヲ願フモノ有之由右ハ方今費用亦多端ノ際成業ノ目的之レナキモノヘハ官費ヲ支給スヘキ条理ニ無之第一官費之名義ニ悖リ候条自今退学ノモノハ先般貸費生ノ時ヨリ附与イタシ候学資金總悉皆辨償可為致此旨相達候事

東京開成學校

明治七年四月

東京開成学校

官費生規則第十四章及第十五章

[illegible]左改正候条此旨相達候事

明治七年四月廿三日

文部卿木戸孝允

第十四章

生徒数月乃至数年間官費ヲ受クルト雖モ学業進備セサルノ證判然ナルモノハ官費ヲ止ムヘシ

第十五章

官費生疾病其他止ムヲ得サル事

東京開成學校
東京開成學校

故アリテ自ラ退学ヲ願フモノハ其事
実ヲ糺シ之ヲ許スト雖モ既ニ給与セル
金額ヲ一時ニ償還セシムヘシ

官費生規則第十七章ニヨレハ一等親
ノ病変或ハ不得止事件有リ一時帰
省下宿ヲ願フモノハ日用ノ給与ヲ止メ
再ヒ帰校スルノ日ヨリ給与スル法ニ
而得其冬夏休業中帰省下宿
スル者ハ此例自ラ相異ナラサルヲ得
ス抑モ此冬夏大休業ヲ設クル
ハ蓋其生徒ノ精神ヲ爽快ニシ更
ニ勉強力ヲ増生スルモノニシテ此休
業中ハ各好ム所ニ従ヒ或ハ父母ニ
逢フカ為メ帰省スルモノアリ子ノ
至情尤モ賞誉ス可キ事ニ有之或ハ

東京開成學校
東京開成學校
東京大学総合図書館

健全ノ為メ温泉ニ到ルモノアリ或ハ
旅行ヲナシ山岳森林ノ精気ヲ
呼吸シ兼テ機関ヲ運動シ数
月間入舎ノ鬱陶ヲ散シ大ニ健
康ヲ養ヒ身体ヲ強壮ニシ他日ノ
勉励苦学ニ備セシムルハ学生ノ
最モ緊要ナリ是以休業ハ学校
之ヲ与フモノニシテ敢テ自ラ請フモ
ノニアラス然ニ官費ニテモ暑中
休暇ヲ端ト各自ノ便宜ニ任セ或ハ
温泉ニ至リ又ハ郊外ニ旅行モ敢テ
俸給ノ減スルナシ特ニ生
徒ニ至リテ帰省ノ為官費貸費
付セサル儀不公平ト云フベキカ又鉱山
工業等ノ生徒ニ至リテハ或ハ旅行中
実物ヲ見キ大ニ益ヲ得ルモノ少ト
存候尚又貴生規則第十七章ニ
左ノ但書相加ヘ度此段仰高
議候也

第十七章

但夏季休業中帰郷下宿等
スルモノハ此限ニ非ス

東京開成学校長

明治七年四月　柳本直太郎

辻新次

伺之通官費生規則第十七章但書
ニ追加候事

明治七年四月廿四日　印

木戸文部卿殿

官費生支給ノ儀ニ付テハ先ニ官費
生規則第十三章ニ其準ノ之ヲ掲
示シ大小ヲ分チ偏ニ一般ニ不拘ヲ以テ
支給致シ候処右等頗ル冗費ヲ要シ弊
害ヲモ生シ候儀ニ付委詳ハ
追テ経伺ニ可仕候得共方今改革
ノ際筆墨紙等ノ如キ消耗品
支給ノ代価ノミ相省キ候様致シ度
此段至急相伺候也

明治七年四月二十日

開成學校長　畠山義成

木戸文部卿殿

東京開成學校

畠山義成

木戸文部卿殿

伺之趣不都合ニ候得共ゼーケルヘ内約之旨今更相改兼可申ニ付特別ノ譯ヲ以テ聞届候尤右内約ノ旨申立方遺漏イタシ候儀ハ主任ノ者取調待罪書可差出事

明治七年五月二日 印

本月十九日級長ヲ廃シ更ニ級首ヲ設ケ度段相伺候處御採用相成候處級首ハ級長ト同シ事ニ而改名而已ニ相當シ然ルニ従前級長ノ職タル過般申上候通極メテ重任ニシテ其責務ニ堪ヘル者尠ナキヲ以テ之ヲ廃シ更ニ級首ヲ置キ級中生徒學位ノ文學ヲ以テ之ニ任シ其當ノ軽任ヲ掌ラシメンノ趣意ニ有之候ニ付級首ノ字ヲ用候如キ級長ノ字ヲ用ユヘク筈然ルニ字義ヲ顧ミテ格別ノ大異無之ト思ヒ名ノ如キハ素ヨリ小事ニテ何

東京開成學校

東京開成學校

東京大学総合図書館

レニテモ苦シカラス候且級長ノ名ハ
古ヨリ用ヒ来リ候事故其職掌ヲ
更ムルモ名同シケレハ時ノ観ヲ徴
スノ弊アリ即今旧慣ヲ一掃シ
新ニ任ヲ更張セントスルノ際ニ当リ
名義ヲ改メ従来ノ事勢ヲ革メ
度存候条字義ニ於テ些少支無之
候ハヽ級首ト改称相成候様致度
伺候也

明治七年四月廿日

開成学校長

畠山義成

木戸文部卿殿

此旨本文級首ヲ設ケ候儀ニ来ル
至目下各施行ニ改候条ニ於ハ
今般改中此指令不及候也

書面級首ノ熟字穏カナラス且判然
権限相改候上ハ弊害モ不可生候條
最前相達候通級長ト可相改事

明治七年五月三日

印

東京開成學校

独乙人　クニッピング

給料一ヶ月金三百円

明治七年四月廿五日ヨリ同九年四月廿四日マデ

二ヶ年間

右者従前給料一ヶ月二百五十弗ニ而
此度雇替相成本月廿四日満期ニ付同人義
学力も有之且[illegible]之者ニ付再約
之儀申出候ニ付従前之給料ニ
而者取計難致候ニ付右同人ニ代り
候者他ニ無之且同人義ハ当校独乙
学創業之際より御雇相成居候ニ付
教授之儀ニ尽力いたし生徒ヲ勧誘及ヒ
誘導之功有之専門科ニ進歩致候のも

東京開成学校

東京大学総合図書館

業出張ノ所ヘ全ク同人ニ而勤労居
候ニ而又性質淳良学力優等就
中測量学等ヲ教授御ニ相成候ニ付
最モ生徒教授ニ有之者ニ付満期限
一時雇止要ニ相成書之通ニ而師
雇致度此段相伺候也

明治七年四月四日

宮城県学校長

文部卿木戸孝允殿

辻新次

伺之通

但結約ノ上條約書和文獨乙文各二通可差出事

明治七年五月五日 印

生徒受業料ノ儀ハ学制第四十三章
掲載ノ通リ学事ニ関スル数件ニ
合費ハ生徒之ヲ辨スヘキモノナリ雖
トモ生徒ノ力及ハスシテ学業之カ為
メニ滞輟スベシ故ニ官分之ヲ助クト
雖トモ生徒固ヨリ幾分受業料ヲ納
メサル可カラス、云々ノ條ヲ掲レハ之ヲ
納ムル至當ノ義ニ有之候得共倩案
スルニ学校ノ設アルハ人智ヲ暢達
シ天下ニ蒙昧ノ人勿カラシメンカ為ナリ
是以西洋各国ニ於テハ人民教育
ノ税アリ故ニ官校ニ於テハ敢テ受

東京開成學校

今般當校中ニ縦覧室ヲ設ケ各譯
書ヲ始メ我國ノ正史及ヒ野乗等ノ類
其正シキモノヲ撰ミ之ヲ準備シ生
徒課業ノ餘暇該室ニ入リ縦覧シテ
見聞ヲ廣クシ候様致度存候ニ付貴校
ニ於テ書籍御備ニ相成候ハヽ各一
部ツヽ御寄贈有之度此段及御照會
候也

七年六月　日
開成學校

各省御中

東京開成學校

東京大学総合図書館

當校之義生徒國教授ヲ相備ニ洋テ洋服ヲ模シ候處元来生徒ノ如キハ其衣服總テ一ナラス大凡ソ亦袴ヲ穿チ袴ヲ着ケ候モノニテ器械ノ使用体操ノ運動等ニ於テ大ニ不便ヲ生シ候間先年生徒一般靴ヲ穿ツベキノ令ヲ出シ候事ニ有之候處此般右之例ヲ以テ元来生徒一般洋服着用ノ儀申付度右等決然迅速御指令有之度伺候也

七年五月十二日

開成学校

畠山義成

木戸文部卿殿

東京開成學校

右之趣太政官本年第拾八号御達之趣モ有之候方之儀総相成度事

明治七年五月十二日

允

東京開成學校

書面之趣漸次洋服着用不苦候便
宜告諭致候儀ハ不苦候事

明治七年五月十三日　印

去月中経伺之上天文学教授ヒヒ
ミエー儀病気ニ付同人ヘ全ク廃追東京外国
語学校教諭仏人プラ雇入授業
為致置候猶又ニ数学教授之義去
追テ一個出来候某ノ節中土星候處
何分数学専務適當之者無之仍
テハ同校教諭仏人ピゴジヨン義学力
有之者ニ付レピシエー全仮追毎日半時ツヽ
二時間一ヶ月金五千円ノ割ヲ以テ去
雇文学及数学初歩教授為致候
處大凡二ヶ月未満雇入候事ニ相
成正同校授業時間ニ差障シ不申已ニ

同校ヘ御達有之候様致度且迅速ニ御指
令有之度候也

明治七年五月四日

開成学校長
畠山義成

木戸文部卿殿

伺之通
明治七年五月十三日
印

当校名目ノ自今東京開成学校ト称シ
学区ノ別記載ニモ及ハス所達之趣
致承知候処開成学校ノ称ハ固有名
詞ニテ医学校ノ普通名詞タルト異
ナルモノニテ地名及ヒ学区ノ別ヲ記載
セサルモ敢テ錯繆ナキヤ必セリ況ヤ此
校ハ御国内第一等ノモノニテ其名
遠ク海外各国ニ聞ヘ洋人トイヘ𪜈
開成学校ト云ハ其日本東京ニ
アルヲ知ル了久シ然ルニ今東京ノ
二字ヲ冠シ候ハ全ク縁故無之義ニ
有之候且前條ノ次第ニテ固有名

東京開成學校
東京開成學校
東京大学総合図書館

詞ノ事ニ而東京ノ二字ナキモ差閊
無之義ト存候仍テハ右ニ於テ合之義
無之候ハヽ称呼固舊ニ相据置度
此段奉伺候也

明治七年五月 日

東京開成学校長 畠山義成

木戸文部卿殿

伺之趣難聞届候事

明治七年五月十四日

印

東京開成学校

夫レ木ノ初メテ生スルヤ芽萌怡ミキモ
其成長ニ従ヒ曲直長短同キ能ハス或ハ
棟梁ノ材トナリ又ハ椽桷ノ用トナル且
終其ニ葉物トナラサルナリ是豈木ノミ
ナランヤ人亦如此其呱々乳ヲ求ムルノ時ニ
方リ豈賢不肖ヲ辨セン然ルニ其生
長スルニ従ヒ或ハ賢トナリ又ハ不肖トナル
之レ造化ノ公裁ニシテ如何トモス可カ
ラス已ニ當校官費生徒ノ如キモ始
メ撰挙ノ際ニ方リ尤モ意ヲ盡シ人物
ヲ淘汰シ身体ヲ検査スト雖モ即今ニ至リ
夥多生徒中往々進歩ノ遅速学術

東京開成学校

東京大学総合図書館

ノ高下身体ノ強弱年齢ハ久仍テ慥
フニ学業進修ノ目的アルモ、疾病ニ罹リ
在学勉強イタシカタキモノハ治療ヲ加ヘ
全癒ヲ待テ再ヒ就学セシムルモ其期ハ
カル可カラス但数月間廃学スレハ自ツ
カラ学力退却シ前級ノ科ヲ踏ム能
ハサルニ至リ之カ為メ勢ヒ志気ヲ挫折
スルモ亦知ル可カラス或ハ学力已ニ止リ
進修セサル者ニ於テハ其技ノ足ラサル
者ニシテ敢テ責ムヘキノ理ナシ或ハ学
業稍々進修ノ目的アリト雖トモ貧窶
ニシテ自ラ家政ニ与リ父母ヲ救護セ
サルヲ得ス是以テ其身モ已ニ勉業ノ

東京開成学校

鋭気ヲ挫キ小成ニ安ンシ世利ニ走ルモノニ至リ
テハ之ヲ教養スルモ国家ニ於テ何ノ益カア
ラン故ニ此ノ三者ノ如キハ事故自ツカラ
区別アリトイヘトモ到底大成ス可キ目的
ナキハ一ナリ右等ノ者ハ当校ニ於テ逸々
之ヲ実検シ其疾病或ハ其学力或ハ其事
由ヲ詳ニ悉上申イタス可ク然ルニ爾来ハ
生徒採用等ノ義ニヨリ従前ノ如ク当
校限リ諸省其他諸学校ト往復等決テ
致タサス当校ニテハ只タ経伺ノ上官費
生規則ニ照準シ退学ヲ命シ或ハ退学
ヲ願ハシメ之ヲ許スノミニテ其他之ヲ採
用スル等ハ特ニ本省ノ御処分ヲ仰セ候

東京開成学校

東京大学総合図書館

前段ノ他学校ニ於テモ當校卒業ノ生徒ヲ本省ニ求ムルニ非ラスンバ之ヲ採用スルヲ得ス生徒ニ於テモ亦タ本省ニ願フニ非ズンバ奉職スルヲ得サラシメ度此段相伺候也

七年四月

開成学校

柳本直太郎 印

畠山義成

文部卿木戸孝允殿

但書本文ノ如キモノ生徒中ニ有之候者取調ヘ上申可仕候也

書面疾病事故アル者ハ其事由等上申之義ハ伺之通タルヘク其他ハ渾テ從前之通可相心得候事

明治七年五月十七日

印

東京開成学校

東京大学総合図書館

書面之趣難聞届候事

明治七年五月廿三日

（印）

先般當校官費生徒中疾病又ハ学
力已ニ止ヲ或ハ父母扶養ノ為メ勉業ノ継
続ヲ難キ少成ニ安ニスル等ノモノハ其事由
ヲ詳ノ悉具状ニ本省ノ所分ヲ請ヒ当
校授ニテハ右等ノモノ採用ノ義ヲ前途省
及教学校ト往復等決ニテ致サス候様仕
度候段伺置候処于今御指令無之候
ルニ此節官費生徒中名学校ニ採擇
相成候者多クハ前条ミ如キノ何レモ
ニ止ヲ得テ而已ニ有之ノ趣ルニ右採用相
成候様他学校ヨリ掛合有之候ハ、
本人身体ノ虚薄学力ノ進否等

東京開成學校

先般官費生徒疾病事故アルモノハ退
学セシムルノ儀ニ付テ相伺候処疾病
事故アル者其事由詳ニ申ノ義ハ
可為伺之通尤其他ハ深ク注意ノ通
可致尤得注御指令有之候ニ付御指
令ニ有之官費生退学ノ義ニ付テハ去ル十四
日注ス他学校ト採用ノ際ニ体裁ノ
差支有之候事情篤ト委曲上申ニ候
病事故アル官費生従前ノ者其他ト
採用可相成者ハ当分当校ニ於テ一
旦退学申付ルノ後採用スル如ノ
[illegible]

東京開成学校

伺尚右甘粕警印外二人病気ニ付退
学ニ付右申立候処未タ右ノ如
キ届無之処一昨十七日甘粕警印外二人ハ
従前之通校規ヲ以テ大坂府司法学
校ヨリ御採用相成候右ハ当校ノ
條則御指令ヲ以当方ノ義ニ付候ハ甚
不都合ノ次第ニ付此何ナレハ該省
其他ニ於テ当校生徒ヲ用ヒント
欲スルモ在学期年中ノ者ヲ採ル
能ハサルノ理ナリ若シ退学ノ命ヲ下シ
其事由ヲ公示シ然ル后採用ス
ルニ非スンハ不都合ニ付テハ生徒中
人撰進学ノ者ヲ抜擢スルニ当リ

他生徒之気意ニ関スルノミナラス之ヲ誘導
スル弊トモ相成其採用ノ事実タル病気
事故等アリテ到底成業ノ目的ナキ
生徒タルヲ知ラシムル能ハス且ツ官費生
タル者他ヨリ請求スルモ当校ノ意見ヲ
以テ素ヨリ裁決スル能ハサルノ理ナルカ
故ニ従来他ヨリ掛合有之候節ハ生徒ノ
事実ヲ記シ追テ退学相命シ候間其
上如何トモ採用不苦旨一ト相答候ノ如
書ニ採用不苦旨回答致シ来リ候ハ
条理ニ悖リ且ツ文部省ニ於テハ在学期
年中ノ生徒ヲ退学ヲ命セス本貫一應ノ
差閊有無ヲ問ヒ御採用ニ相成候ハ

東京開成学校
東京大学総合図書館

名義正シカラス候様存候仍而此等ノ儀ヲ改正可仕候実ニ夥多ノ生徒中後来疾病事故アリ成業ノ難キモノ必スシモナラス然ルニ之ヲ羈縻シ退学セシメサレハ遂ニ数十人ノ多キニ至リ可申且学力ノ優劣ニ関セス假令官費生タルモ尽ク之ヲ用ユヘキニ非ラス候間右等ノ如キ者ハ何レニモ一旦退校ヲ命シ其学力ト人物トヲ詳審シ上申候間採用ノ有無ハ本省ニ於テ御處分ニ相成候ハテハ御不都合相生シ可申候間尚篤ト御詳議ノ上前顕ノ如キ生徒ハ一旦退学セシムル様いたし度此段再應相伺候条迅速御裁議有之度候也

五月十九日

開成学校長　畠山義成

田中文部少輔殿

伺之通

明治七年五月廿二日

（印）

理学諫科第一級　甘粕鷲郎

同　第二級　大村央

同　第二級　木村乙吉

者ニ名義ニ療病ニ付是迄尚於病室ニ於テ
治療善加並於如何ニ全癒ニ至ラス敵テ
而療勢ノ加ハルニモ無之只瞽ニ消光イ
タシ居候間医負ニ命ニ病根ヲ摸索為
致候処別段ニ治医謹善ニ中候故
右何レモ進修ニ因達有之者ニ候得

東京開成學校

去ル十四日鈴木敬作ヨリ差出退学
願之義ニ付伺置候処右ハ本日御指令
有之候然ルニ同日有[illegible]御家人
被雇候ニ付退学願之趣無之是又右
伺置候処如何今般御指令無之右ハ
至急ニ付右之義ニ付迅速御裁許被成
下度此段至急申上候也

明治七年五月廿二日　東京開成学校

畠山義成

田中文部少輔殿

書面ノ趣ハ既ニ及指令置候事

東京開成学校

明治七年五月廿四日

印

当校教授米人グリフイス儀上総国
市原郡八幡宿在菊間村田辺貞吉方ヘ
用向有之本月二十日ヨリ[illegible]候
罷出候条各県地方ヘ兼而御達置
被成下度此段申上候也

七年五月廿日

開成学校
畠山義成

田中文部少輔殿

伺之通

明治七年五月廿五日

印

東京開成学校

独逸教授セーゲル雇入期限之
義ニ付云々之趣何卒如本月三日
内稿之旨申上置候通満イタニ致
差支主任之者ゟ継待罷在候ニ付
候得共右精合之趣候而相継候
処右代り候松崎正夫之者
当務中取扱候間右間合候
別段之通ニ而読書候処中頃仍而
ハ主任之者ハ其後之内ニ而も
候得共已ニ何とも転職いたし
候ニ付何共難載ニ相成待罷在候ニ付
更ニ取計候様致度此段申上候

東京開成學校

天文学教授仏人レピシエ今般病氣ニ付
帰国願出候ニ付而ハ右代教授ニ從来
朝人中ヨリ然ル者無之候間代員トシテ天
文学教授一人一ヶ月三百五十円乃至四百円
位ノ月給ヲ以テ仏国ヘ迅速御注文相成
候且右代員来朝迄ノ間ハ来朝人中
数学ニ長シ候者相雇教授業為致置度
候條右件迅速御許容相成
候様仕度此段至急相伺候
也

明治七年五月十四日

開成学校長

畠山義成

木戸文部卿殿

東京開成學校

教員比確定相成候ニ付金生貸費
生之儀者東京ヨリ更ニ貸費團之
義ヲ以テ當該ヲ衛キ候者ニテ端
的償還之目途無之且既往之
義モ有之候得共出格之御詮議ヲ
以テ中途ヨリ全額支給従へ
ニハ不及格以テ致シ度此段至急御指
令相伺候也

明治七年四月廿五日　　開成学校長

木戸文部卿殿　　畠山義成

書面本文之方今當裁改革之際
既往之會計上之関係いたし候
義ニ付至急ニ可及裁可ニ付此旨申
候也

伺之通
明治七年六月十三日

東京開成學校

今般天文学教場之儀ニ付詮議之次第有之候ニ付同学生徒共当校ニ於テ更ニ変分ヲ致候段御達ニ付自今左書之旨趣ヲ以テ変分いたし一の中御示東氏致候為御指合御届候也

七年六月十二日　東京開成学校　畠山義成

田中文部少輔殿

変分案

一 自今仏語ヲ以テ天文学ヲ教授スルヲ止ム故ニ天文学生徒中更ニ諸芸学志願之者ハ之ニ加入セシメ従前ノ和

東京開成學校

リ学費ヲ給与スヘシ

一 生徒中更ニ諸芸学志願ニ候ハゝ者ハ勿論止退学ヲ許ニ学費償還ヲ除スヘシ

一 生徒中英学ヨリ諸芸学一年下級ニ及ハサル者ハ再ヒ諸学校ニ入ラシメ相当ニ学費ヲ給与スヘシ

伺之通

明治七年六月十三日 印

天文学教場生徒変則之儀昨日相伺候処猶熟考候処変則募集方一条中少ミリ穏当ナラサル廉有之候ニ付更ニ別紙之通改正いたし度奉存候依テ別紙相添此段更ニ相伺候也

七年六月十二日

開成学校長 畠山義成

田中文部少輔殿

伺之通

明治七年六月十四日 印

東京開成學校
東京開成學校
東京大学総合図書館

一自今佛語ヲ以テ天文学ヲ教授スルヲ止ム故ニ其生徒爾来学事ノ方向ヲ轉シ更ニ諸藝学ニ入リ成業ヲ期スベシ

一生徒中更ニ諸藝学志願ノ無之者ハ不得止退学ヲ許シ官費償還ヲ除スベシ

一生徒学力試験ノ上諸藝学一年下級ニ及ハサル者ハ再ヒ外国語学校ニ入ラシメ右當分之費ヲ給与スベシ

東京開成學校

東京外国語学校ハ去ル明治六年中
外務省構内ニ設置シ語学所ヲ当校語
学ト称シ旧物ヘ合併イタシ更ニ外国語学校
ト改唱スト雖当校附属ノ支学ニ有之
候処昨年十二月当校管理ニ属シ
明治年有之候以来全ク独立セシモノニ
候得共当学校モ西校ヲ兼勤セシ
ニヨリ其後書籍ノ如キ共用致シ居候
ルニ今般同校ヨリ書籍器械等ヲ受取
ニ外国語学校独立不致西校互ニ兼用イタシ
来リ今日ニ至リ未タ孰レノ所有トモ判然
区別相立兼候ニ及ヒ右年来書籍ノ中

東京開成学校

テツノ剛愎ナルハ授業上ニ於テ害ナリ
且本人儀去五年二月以来殆ド二年
半ノ間雇ニテ其際授業ニ従事セシハ
少ナシトイヘ共之レ彼ヨリ求メシニアラス
自ツカラ事故アリテ休業セシモノナリ
曽テ同国人語学教師ガローノ如キモ
満期ノ間雇止ノ節七十余圓ノ品物ヲ賞
典トシテ下賜相成候事モ有之況ンヤ専門学
教授ニ於テ多サヲ論セス賞典無カル
可カラス已ニ本年太政官ノ達第五十二号
中外国人傭入中職務勉励功労有之者
満期之上ハ賜金ノ儀自今常額金ヲ
以テ御斗候分金高四十円迄ハ各一應限リ

御斗ニ不苦ノ旨ノ御拘載有之候処当校之額
金送拂之儀三百円以下ハ自来精算帳ニ
記載ノ品申上候事ニ有之候殊ニ右賞典ハ
ハ些少ノモノニテ全ク当校ノ徽意ヲ表シ候
中ニ有之候ニ付詮伺セス去ル八日金三十円ノ価ニテ
縮緬一疋同徽ニ及ヲ購求シ相渡シ候事ニ
有之候尤モレピシエ儀未タ横浜ニ於テ二層
罷在居候引拂ノ儀不相成居候当本人より
[illegible]雇止ノ品及ビ右事情ノ品
ニ申上候居候場合ノ不問ニ付先ツ
賞典ハ差上候額未ヲ記シ此段申上候也

東京開成学校長

年六月十六

畠山義成

書面レピニエ歸國之儀ハ尚確ト取調更ニ可届出事

明治七年六月廿二日　印

當校製作学教場之儀設立未タ幾な
らす然處生徒之業漸ニ進歩し且
諸器械製作等日ニ多ク何分在来之教
場ニ而ハ狭小ニて差閊候ニ付別紙圖面
仕様之通リ建増及ヒ模様替いたし度
右ハ已ニ急速相成不申候半而ハ不都合ニ
候間昨日入札申付候處金一六百九拾四圓
ニ而山浦幸七郎落札相成候ニ付迅速着
手いたし度尤経費之義ハ當校常
額金ヲ以て仕拂ニ可申候条至急御
許可相成候様仕様帳相添此段相伺
候也

東京開成學校

淀鍬系ヲ分之條告も有之候ニ
同校教授ニ於テ英学勉励
呂同秀雄儀者已ニ昨年十二月
中惜ニ候ある故以て公私学校
入学能在許可候事ニ有之本人
義も同様之義ニ付願之趣
在学之事有之候間御許可被成下度此段
此達ニ付申上候也

七年六月廿三日

東京開成学校長　畠山義成

田中文部少輔殿

書面谷川管願之趣差許候事

明治七年六月廿九日　印

東京開成學校

今般仏語ヲ以テ天文学ヲ教授ス
ルヲ被止於當校天文学生徒處分
ニ之方法過日経伺ノ上其旨趣ニ
基キ懇諭ニ及ヒ候処何レモ理義ヲ
了解シ各意ヲ奉戴シ更ニ諸藝
学ニ入リ其学科勉励他日卒業
ヲ期シ申度旨申出候其内宇川
盛三郎儀ハ追学轉出之旨内願書
差出東京外國語学校ヘ入学致シ
度旨ニ有之其他二十七名ハ即テ
當校ヘ移シ速ニ諸藝学科ニ従事
為致候処何レモ其科試業ニ相成

東京開成学校

田中文部少輔殿

前文御指揮有之候ニ付天文学生徒
協議之義差遣ニ及候段申進候也

伺之通

明治七年六月廿九日 印

別紙天文学生徒宇川盛三郎
高田重義両名ヨリ退学願及東京
外国語学校入学願差出候
付テハ情実ニ無拠義ニ付本人共願
出之通聞届度別紙相添此段
條右ハ申進候也

七年六月廿五日 東京開成学校長 畠山義成

田中文部少輔殿

東京大学総合図書館

給与之義ハ東京外国語学校ニ
相達置候条同校ニ引渡方
可取計事

明治七年六月廿九日 印

天文学生徒今般語藝学ニ轉学
為致候ニ付右生徒當校ニ而語学
ニ有之既ニ右ハ天文学必須ノ場
ニ候ハ地味高燥之義ニ付當校
生徒御差遣ニ相成候所今少
有之候ニ付天文学生徒引拂
候上ハ同校ノ者志者稿之中ヨリ
之ニ付同校之向ヘ差下局六名
者以中上置候也

開成学校長

七年六月廿六日

畠山義成

田中文部少輔殿

落札相成候ニ付迅速ニ御手配致し
候也 経費ノ儀ハ当校常費金
ヲ以テ仕払ノ申立候条至急御
許可相成候様 仍テ仕様書及図
面ヲ添此段相伺候也

明治七年六月廿二日　東京開成学校
　　　　　　　　　　　畠山義成

田中文部少輔殿

書面書庫修理并書架取設ニ付金
四百九拾九円八拾弐銭ヲ以菊原勝右衛門
へ為手申付可然事
但委細之義ハ本省会計課打合可申事

明治七年七月五日　印

當校逐日盛大ニ赴キ生徒ゝ入学ヲ請
フモノ日ニ増加シ且先般帰
朝ノ留学生中及外来生徒入舎ヲ望
ムモノ多ク有之勢ヒ備ムヘカラス仍テハ一層
教育ヲ擴張致し度候處無拠変出来
ノ寄宿舎ハ既ニ充満ニ及ヒ更ニ募集
生徒ヲ容ルヘキ場所無之候間依テ付
別紙図面仕様ノ通リ新ニ寄宿舎
一宇築造いたし候右ハ当節着体業
中悉皆落成ナラテハ不都合ニ付最早
入札為致候処弐千三百四十四円ニ而山岡
庄兵衛落札ニ相成候申付候間迅速着

手ヲ以テ取調度尤経費之儀ハ當校
常額金ヲ以テ仕拂之筈ニ御座候
急御許可被成下候様仕度此段
相伺候也
七年六月十五日
東京開成学校長
畠山義成
田中文部少輔殿

書面新築寄宿舎之儀ハ合金弐千百三
拾弐圓ヲ以テ西川恒次郎ヘ着手申付
可然候事
但本省會計課ノ者時々監査可致候條
此旨可相心得事
明治七年七月五日　印

當校生徒寄宿舎新築及書庫
修繕之儀今般着手當夏休業中落
成ニ為致度候ニ付兼テ都合ニ付差急ニ落成
之目ヲ以テ魁ニ入札之段相伺候處
落札ニ相成候ニ付過般仕様書相添
着手御許可之儀相伺候處ニ
右ハ至急之儀ニ付府下一般ヘ投
札之布達ニ及候段二三之職方ニ而命シ
入札為致候處當着手之者ハ落札
其職ニ而創業仕候方法ニ據リ大凡之
價ヲ了解ニ居候事ニテ右落札之
價ヲ以テ積リ相成ニ過當之儀無之ニ付

東京大学総合図書館

明治七年七月写

文部少丞兼東京開成學校長　畠山義成

東京開成學校

東京開成學校

東京大学総合図書館

文部少輔田中不二麿殿

伺之趣更ニ一般入札為致候儀聞届候事

明治七年七月九日 印

諸藝学校生徒方今大ニ進歩致シ
随テ試験用器械ニ至テハ甚差閊
候ニ付先般物理学器械別段目
録之通リ仏国ヘ注文致シ以テ
候処右器械ハ已ニ昨年中
代價大凡金六千円程ニテ物取仏
国ヘ注文之儀ニ付伺置候処化学器
械之方ハ昨年十二月及本年
二月両度ニ而弐百五十円之物取
注文相成候処物理器械之方ハ
其節元書之目録ヲ以テ出来候品
價取調中ニテ候處今般更ニ一般伺

東京開成學校

東京開成學校

東京大学総合図書館

出張居候而當二月中當校ニ
願置候處人才不足候ニ付彼是手隔
有之未タ候還遅延候ニ付居候處即
今之通リ物理器械並ニ授業上
差閊候間右器械當校ニ而買
取度候ニ付仍テハ右器械代價大
凡金三千圓程之處迅速ニ以
御下ケ相成代價之義ハ當校定
額金ノ内ヨリ以テ相拂ヒ申度
候間買入之義御許容相成候樣
此段御指揮有之度候也

明治七年六月廿日

東京開成学校長

畠山義成

文部少輔田中不二麿殿

追而別冊購求之段器械目録相添
出候也

書面之趣聞届候事

明治七年七月十日 印

今般當校法理工業学自費生
徒百名入学之儀御許可相成候ニ付来ル八月
十日ヨリ同十五日迄之間志願之者
ハ當校ヘ願出候様一般ヘ御布
告相成候様致度此段至急申上候也

七年七月九日　文部少丞兼東京開成学校長　畠山義成

田中文部少輔殿

追テ本文之趣當校ニ於テモ別紙之
通リ新聞紙ヘ掲載之儀取計候
参考之為メ別紙相添差出候

伺之趣期限差迫居候ニ付今般ハ教
告不及候條於其校便宜教知可
致許事

明治七年七月十三日

印

米人　グリフイス

甲剣街道通り
富士山近来ル十六日出立

獨逸人　クニツピング

下野国ヨリ光表近
来ル十六日出立

仝国人　ニエンク

甲州信州及日光表近
来ル十七日出立

妻同行

右之者当今休業中ニ付書面之通
旅行いたし度旨申出候ニ付テハ沿
道諸縣ニ於テ保護方御布達有之度候也

七年七月十日

東京開成学校

東京開成學校

東京開成學校

本省江申

書面御雇外國人旅行之儀ハ本年太政官第八十七号御達ニ照準更ニ可申出事

明治七年七月十六日　印

當校教授米國人クラーク内地遊行免状兼而静岡縣ヨリ御渡ニ相成居候処同縣ヘ返上いたし候旨ニ付更ニ御渡相成度候右者雇入之節條約書写外務省ヘ御廻し有之候條ニ付至急同省ヘ御掛合本月十四日中ニ御渡有之候様致度候也

七年七月十二日

東京開成学校

本省御中

追テ同月廿日出立致スベク外六人同行免状共々迅速御渡有之候様致度候也

当校教授獨逸人クニピング儀妻同行ニ而来ル十四日出立日光表同国人ミエンク足京妻同行ニ而来ル十七日出立信州甲州及日光表ヘ旅行致度右者夏中出張仍テハ同人共妻一時内地通行免状御渡被成度右者時合切迫シ候ニ付速ニクモ来ル十四日迄ニ免状御渡被成候様大至急申上候也

七年七月十三日　東京開成学校

本省御中

書面内地通行免状之儀ハ本年太政官第八十七号御達ニ照準更ニ可申出事

明治七年七月十三日

印

米人
ウエーダル

右者明十四日出發横濱表
候處同港出立甲州街道ゟ中仙
道へ出夫ゟ西京及ヒ越前國福
井加賀國金澤迄旅行仕
途越後ゟ信州ヘ出帰京致し
度旨願出候ニ付一時通行免
状御渡之義外務省ヘ御掛合有
成今日中御廻有之候様致度至急
申上候也

七年七月十三日

東京開成学校

書面内地通行免状之義ハ本年
太政官第八十七号御達ニ照準
更ニ可申出事

明治七年七月十三日

印

学人リツトル雇継伺

学人　リツトル

鉱山学校理化学教授
リツトル

右者当月十三日満期ニ相成候処品行最モ正シク殊ニ教導懇切ニ而生徒服従シ学力相進ミ候者ニ付給料其他共従前之通ニ而更ニ本月十四日ヨリ来ル九年七月十三日マテ向二ケ年間雇継相成度此段至急御指揮相伺候也

七年七月九日

文部少丞兼東京開成学校長
畠山義成

本省伺中

書面内地通行免状之儀ハ本年ヨリ改官第八十七号御達ニ照準更ニ可申出事

明治七年七月十三日　印

東京開成学校

文部少輔田中不二麿殿

伺之通
但結約之上條約書写和獨文各二通可差出事
明治七年七月十五日
印

當校化学教授米人グリフィス儀本月十六日帰國いたし度旨願出有之付右ハ本人事去ル壬申正月中旧福井藩より當校ヘ御雇替候以來已ニ二ヶ年有余ヲ經候得大ニ授業上ニ尽力シ生徒進歩ノ効験モ有之殊ニ本人來校ニ始メテ校中ニ化学ノ科ヲ設候事ニ而當校化学ノ鼻祖ト云フヘキ者ニシテ最モ功労居多ナル儀ニ付今般帰國ニ際シ之ニ賞典ヲ与ヘサル可カラス仍テハ當校定員

東京開成學校

兼テ内ヲ以テ過般仏人レピシエ
帰航ニ付太政官御布達ニ基キ
賞品相遣シ候處當職限リ相渡シ
賞與ニ付キ猶又レピシエヘ賞與
之儀ニ付テハ御達シ之趣モ有之候
間御届ニ及ビ候右御伺申上候時日大切迫
ニ付至急御聞済十七日午前九時迄ニ
御達有之候様致度候也

明治七年七月十五日
東京開成學校長心得
畠山文部少丞
田中文部少輔殿

書面グリフイスヘ賞與之儀聞届候条
金百圓已下之目的ヲ以テ其校定費
之内ニテ取計追テ金高品目等可
届出事
但賞與之儀ハ其時々可伺出筈候事

明治七年七月十七日
印

東京開成學校

当校教授タブリユーイーグリフイス儀当
八月中マテハ満期相成不申候得共
本年本月十八日出立致候様御許可
相成度旨願出候趣ニテ右願書
訳文相添当校ニ於テ取調候処
至急之儀ニ付直ニ本人ヘ回答ニ及
候法達之趣段承知候然ルニ本人
満期ハ八月十六日ニ有之候得共即今
休業ニ際シ授業不致候而巳ナラス
休業ハ彼ヨリ設シモノユヘ仮令授業
セサルモ其間之給料相渡事ニ有之
候場合本人都合ニヨリ満期前解

東京開成學校

約定期限已ニ本月十九日ヲ以テ満
了ニ近ツキ給料ハ不与方当然之義ニ
有之候ニ付本人事ハ曽テ旧福井
藩ニ於テ本国ヨリ招聘致シ来航シ
候同藩ニテ旅費之為五千元支払
候者ニ有之趣ニ候ニ去ル壬申年南
校ニ於テ雇換トナリシ以来始メテ化学ヲ
生徒ニ教授シ本日ニ至リ候事ニテ
数年間生徒ヲ勧導誘掖シ尽シテ
力ヲ授業上ニ用ヒ大ニ生徒ノ進歩
ヲ扶見成シ其功労モ不少候ニ付
而モ旅費ノ補助トシテ八月十
六日迄之給料依然一ケ月分支給有之

本月帰国致シ満期近帰校致ス
上休業中之事ニハ支払ハサルヲ得
サルヿニ付此迄当常之処差出之
条件許容致来候度此段及御伺候ハ
本人ヘ回答之義モ有之候ニ付至急御
有之旅費遅クモ明後十七日朝迄ニ御
指令有之度候也

明治七年七月十四日

東京開成学校長兼勤
畠山文部少丞

田中文部少輔殿

書面グリフイス満期前解約之儀ニ付不
及候條来ル八月十六日迄之給料可遣之

候事
但休業中ニ付本人出立之儀ハ可為
勝手候事
明治七年七月十七日
印

東京開成學校

當校元天文学教授仏人レビシエ雇
止ノ節賞典相與ヘ候儀ニ付其顛
末可申出段過般御達有之去ル十
一日其顛末具陳イタシ候處尚又去ル
十九日学制四十七章并教師雇入條
約規則中賞與之箇條ニ照シ處分
可致筈之處其校限リ賞與候儀
ハ成規ニ觸レ不都合ニ候条其始末
取調可申出段御達之趣承知仕候
シ候然ルニ右始末ハ已ニ先般委曲上申
之通ニテ他ノ仔細無之候尤学制四十
七章教員生徒ヲ教授スルノ外他ニ

東京開成學校

秀越スルモノアル時ハ公私学学校私
塾ヲ問ハス督学局地方官ト協議
シ之ヲ本省ニ乞テ之ニ褒賞ヲ与フト
有之候得共以教員ハ國人ニシテ教
員タルモノト存候其故ハ第四十章
ヨリ第四十七章ニ至ル迄記載セル
教員ハ國人ノ教員タル疑ヲ容ル可カラ
ス其他外國教授ノ儀ハ既ニ太政官
御達有之候得者学制ト雖圧之ニ照
準セサルヲ得ス且ツ已ニ當校常額モ
被定候上ハ素ヨリ右御達ニ照準シ
賞与イタシ候テ成規ニ戻リ申間敷殊ニ
教師雇入規則中格別功労アリテ事

跡著明ナルモノハ満期ノ節謝物トシテ
相當ノ賞譽アルベシト有リ且右但書
中通例生徒教導ノ為メ勉励スル如
キハ素ヨリ其本分ナレハ謝物等アルヘカ
ラスト有之然ルニレピシエ儀ハ通例生徒
教導ノ為メニ勉励スル如キノ比ニアラ
ス僅四五ヶ月間教導セシモ生徒ノ服
従イタシ候事過般上稟ノ如クニ付今
又茲ニ贅言セス且當校ハ本省直轄
ノヿユヘ督学局地方官等ハ協議
スベキ理ナリ仍テ右四十七章ハ全ク
當校ニ関渉セサル儀ト存候間太政
官御達并教師雇入規則賞譽

東京開成學校

東京大学総合図書館

ノ準據ニ處分致シ候事ニ候此段御
下問ニ付御答申上候也

明治七年六月廿二日

東京開成学校長
畠山義成

文部少輔田中不二麿殿

申出之趣太政官本年第五十二号御達
ハ院省使ヘ之達ニテ地方官ト雖モ照準
スルヲ得ス況ヤ學校ニ於テヲヤ其他教師
雇入規則中格別切労云々之條ニ基ク等
誤解ニテ專斷之處置ニ相渉リ候條
右等ノ次第尚取調更ニ可申出事

明治七年七月十九日 印

當校生徒寄宿舎新築及書庫修
繕之儀再入札伺済之上昨十四日更ニ廣ク
入札為致候処別紙積書之通新築営
弐千百三拾壱円九拾九銭書庫修繕金五
百弐拾五円五拾五銭五厘ニテ山浦孝太郎
落札相成候処代價ニ於テ當ニ無之候条
至急着手致度且再入札以前ニ候事
相成大ニ時日ヲ費シ居成之朔日大ニ進
延ニ相成合ニ付候間迅速御指令相成度
此段相伺候也

甲戌七月十五日

東京開成学校長
畠山義成

東京開成學校

東京大学総合図書館

文部少輔田中不二麿殿

書面之趣聞届候事

明治七月廿二日　印

別紙人名之通東京外国語学校ゟ
独逸及仏語学官費生徒ゟ名簿
校官費生ニ差加ヘ之儀申越候處
官費生補欠不致候而者去ル五月
中陸達之次第も有之候得共右
達ニ当校官費生中ニ付候テ一切取扱方
状況至急相伺候条陸指令有之
度候也

七年七月十五日

東京開成学校長兼勤

畠山文部少丞

田中文部少輔殿

東京開成學校
東京開成學校

伺之趣東京外國語學校ヨリ申出候
五名之儀ハ從前官費給与之者ニ
付官費生申付可然事
但給與之金額ハ其校定費ヲ以テ
可相辨事

明治七年七月廿四日 印

東京開成學校

當校獨逸語学上等第六級官費生
曾根条次郎
木場貞長
和田垣謙三
石原精一郎
右之者共礦山学志願ニ付而ハ指出
候条不都合無之様御取計有之
候様及御依頼候也

七月十四日　東京外國語学校

開成学校

出テ御校御都合ニ可有之候条乍
御手数入校ノ日限モ兼テ御示有之
度候也

當校佛語学上等第六級官費生
寺尾壽

右之者諸藝学志願ニ付即指出候
候条御都合次第御採用御取計被成度
此段及御依頼候也

七月十四日
東京外國語学校

開成学校
御中

追テ御校御都合ニ可有之候處入校ノ日
限等兼而御示有之度候也

佛人
クロッツ
明治七年八月二日ヨリ
同八年八月一日迄
同十二ヶ月　一ヶ月給料三百圓

右者旧工学寮生徒諸芸学ニ転科
致候ニ付其扱来セシ処ノ諸芸学科
目ヲ償ハシメン為メ之ニ授業スル教授ヲ
人科ニ既雇入ノ英吉利処去ル之
許容致候ニ付人撰以テ可処置
ニ人物学力有之モノニ有之物理化
学博物学重学教授トシテ来ル
八月一日ヨリ期限給料等書面之
通ニテ御雇入致度此段至急御指令
被下度候也

東京開成學校

七年七月十一日　東京開成学校長事務　畠山義成

田中文部少輔殿

伺之通給料等其定費之内ヲ以テ可相辨候事

但結約ノ上條約書和佛文各貳通可差出候事

明治七年七月廿八日

印

東京開成學校

當校諸藝学生従来之進修以為し

於テ今日ニ至テハ本科教授ノ時ニ至リ候ニ付授業

上ニ於テ実地應之ニ熟合ス歩ヲ官

佛國エコールポリテツク或ハエコールサントラール等ニ於テ本科ニ従事セシ者

ニテ人物精選シ当校諸藝学教

授トシテ一ケ月金三百五十円乃至四

百円ノ給料ヲ以テ二ケ年又ハ三ケ年ノ

期限ニテ本國ヘ依頼及方御成下候様御

指揮有之度相伺候也

明治七年六月廿日

東京開成学校長

畠山義成

東京開成學校

田中文部少輔殿

伺之趣聞届候條凡二ヶ年之期限ヲ以テ兼テ相達候通リ雇入等ノ儀其校ヨリ直チニ佛國ヘ可申遣尤給料其他共其校定費之内ヲ以テ可相辨事

但来朝候ハヽ條約書和佛文各貳通相添可届出事

明治七年七月廿九日　印

今般師範学校ニ於テ造営ニ付當校教授英人リンコルス居館近傍ニ樹木所持致居候仍テハ右之樹木之内十本程自館園庭ニ栽申度旨願出候処當省ニ於テ不苦候ハヽ同人ヘ下ケ渡候様致度此段及御問合候也

七年七月廿日

東京開成学校

本省
御中

書面之趣ハ東京師範学校ヘ相達候

東京開成學校

理事功程第一より第三迄御廻ニ
相成居候處此度編輯出板ニ付
一部御廻相成度且学事ニ関係
候翻譯書類他ニ出板有之
候ハヽ撰而一部ツヽ御廻相成度
此段相願候也

七年七月廿四日　東京開成学校

文部省御中

願之趣理事功程ハ上木次第可
相渡其他ハ入用之書籍取調更ニ

東京開成學校　二

条同校打合之上取計可申出事

明治七年八月二日　印

東京開成學校

東京大学総合図書館

可申出事

明治七年八月二日　印

東京開成學校

師範学校教授米人スコット満期

ニ付雇止之義申来候所引払度旨之趣

伺之義候得共仍テハ右候様当国旧

当校ニ而引渡方取計可然哉中之候也

七年七月廿五日　東京開成学校

本省　御中

書面申出之趣東京師範学校ト

打合可受取事

明治七年八月十二日　印

東京開成學校

清國人雜居取調ノ儀先般東
京府ヨリ照會有之候云々申達候趣
致承知候然ルニ即今傭業ニ而
外國教授ノ内遍ク被雇候
者ニ有之候者英人グリグスベ
リンマルス米人マッカーデ獨人ウエストフア
ール仏人クリロッツ五名丈ケ取糺候處
何レモ清國人ハ雇置不申候條
此段申上候右之段
御回答旁此段申上候也

七年八月十三日　東京開成學校